

くすりと健康のはなし

薬包紙

第37回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
郡上薬剤師会
会長 加藤 徳光



ジメジメ、べとべと、もうすぐ梅雨の時期がやってきますね。食品が傷みやすくなったりする時期ですが、梅雨時や夏は、薬の保存に最も気を配らなければならぬ季節です。食品のように腐るわけではありませんが、薬は光・温度・湿度に大変影響を受けます。保存状態が悪いと変化を受けやすく、効果の上にも悪影響を与えます。特に散剤（粉薬）は水分を吸収しやすいので注意が必要です。

最近では唾液で溶けて水なしで服用出来る薬も多くなってきました。OD錠とか、崩壊錠とか名前がついている薬がそれです。溶けやすい分、湿気には弱いわけです。その他の錠剤でも光と湿気に大変弱い薬があります。また、飲み忘れを防ぐため、一包化（数種類の薬を服用時点でまとめる）した薬は、シートのままと比べて、湿度の影響を受けやすくなることにもなります。ですから、薬の効果を十分に発揮させ、かつ安全に服用するためには、薬に適

これからの時期、お薬の保管にご注意を

した保管をすることが大切です。特別な指示のない場合、原則として低湿度で高温にならないような場所、例えば容器や引き出しの中など涼しい所に保管して下さい。空き箱など、お菓子に入っている乾燥剤を一緒に入れておくのもいいです。但し、乾燥剤を薬と間違えないよう十分注意して下さい。散薬、錠剤、カプセル剤、水薬、外用薬、点眼薬、坐薬、インスリン注射薬など、それぞれ保管に特別な注意が必要な薬があります。

お薬をお渡しするとき説明があると思いますが、疑問に思うことがあれば何でも尋ねて下さい。皆さんからの質問をいつでも待っています。薬包紙で薬を包むだけでなく、私たち薬剤師は皆さんに健康も包んでお渡ししたいと思っています。お気軽に何でもご相談下さい。

梅雨が過ぎれば、夏。郡上では夏と言えば、郡上おどり、白鳥おどりがはじまります。是非、遊びに来て下さいね。